

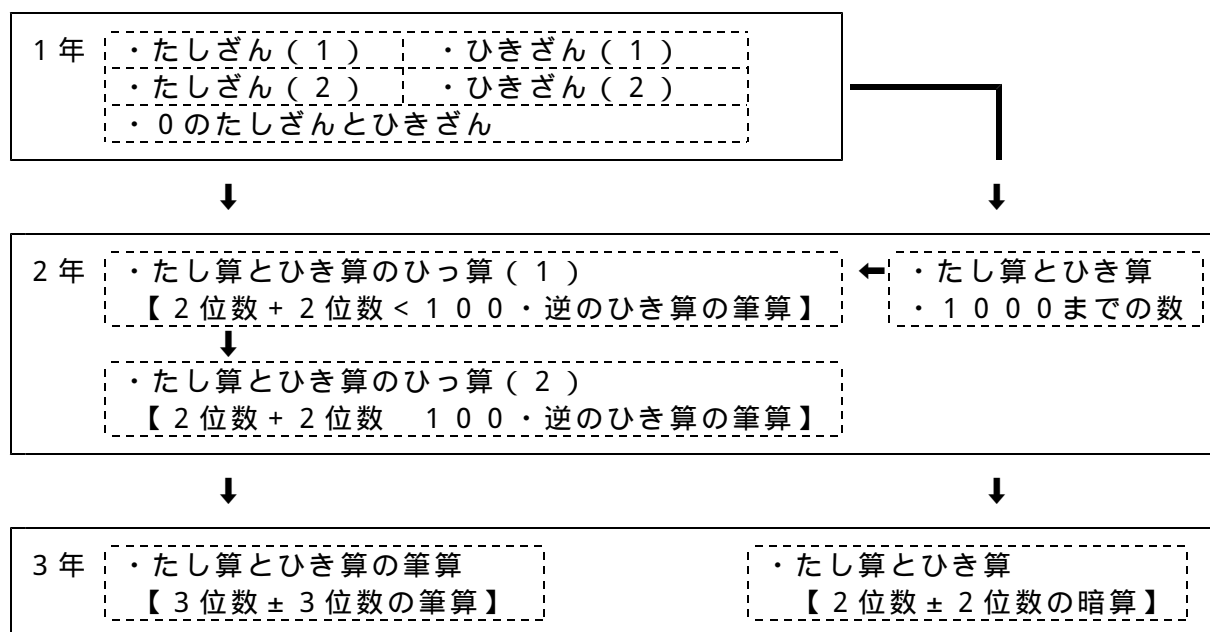
1. 単元名 「たし算とひき算のひっ算(2)」

2. 単元の目標

- (1) 筆算のよさがわかり、進んで活用しようとする。 (関心・意欲・態度)
- (2) 既習の2位数の計算をもとにして、百の位に繰り上がるたし算とその逆のひき算の計算の仕方を考えることができる。 (数学的な考え方)
- (3) 2位数までのたし算とその逆のひき算を繰り上がりや繰り下がりに気をつけて、正しく筆算で計算することができる。 (表現・処理)
- (4) 繰り上がりや繰り下がりの処理を通して、十進位取り記数法についての理解を深めることができる。 (知識・理解)

3. 単元について

数と計算(整数)の領域系統 (1~3年)



加減の筆算は、積み算の形に書き、位ごとに計算をして答えを出す計算方法であり、「縦に位をそろえて書く。」「下の位から位ごとに計算し、順次上の位に及ぼしていく。」という2つの原則がある。その2つの原則をふまえ、一度手順を習得すれば、どんなに桁数が多くなっても答えを求めることができるというのが筆算の最大の長所である。しかし、電卓等が普及している今日では、大きな桁数の筆算を必要としなくなっている。従って、計算技能としては、基本的なアルゴリズムが全て含まれる3桁程度まででよいのではないかと考えられる。そのうち、2年生では、主に2桁の筆算を扱うことになる。

まず、5月に、「たし算とひき算のひっ算(1)」の単元で、2位数+2位数で答えが100未満のもの、ひき算ではその逆を、繰り上がりや繰り下がりが無い場合、と繰り上がりや繰り下がりが1回の場合を系統立てて学習している。本単元では、その既習の学習を用いて、繰り上がりと繰り下がりが2回ある場合の加減の筆算の仕方を理解し、技能を身につけることをねらいとしている。空位の扱いも含めて、繰り上がりや繰り下がりの原理を計算棒の操作などを通して確実に理解し、身に付けさせることが、3年生で3位数の計算の仕方を考える学習へとつながるので大切に扱っていきたい。

4. 児童について

学習に対して前向きな児童が多く、算数の授業においても提示される課題に対して懸命に取り組む姿が見られる。5月に実施した「たし算とひき算のひっ算(1)」の単元で、初めて筆算の学習をしたが、ほとんどの児童が計算の手順をしっかりと捉え、意欲的に取り組む姿が見られた。

しかし、「 $8 + 5 = 13$ 」などの繰り上がりの計算が定着していないため、手順を理解していても計算ミスをする児童が3, 4人いた。また、特に繰り下がりのあるひき算で、十の位から1を繰り下げたのに、十の位の数字をそのまま計算してしまう児童や、一の位の下の段の数字から上の数字をひいてしまう児童が4, 5人いた。

計算が定着していない児童については、1年生の学習の振り返りプリントを用意し練習を繰り返した。また、繰り下がりの筆算で間違える児童については、筆算に1繰り下がったことを書き込ませたり、手順を繰り返し声に出して言わせたりすることを徹底した。本単元でもこのような方法で基礎的な手順をしっかりと身につけさせたい。

5. 指導について

個に応じた指導をするために

本単元では、一人の指導者による指導で、個に応じた基礎基本の定着を図るために、教材プリントの工夫をした。学習のまとめの段階で、3つのコースから自分に適したコースのプリントを選び自分のペースで学習を進めていく。コースには『もういちどバッチリコース』『ぶんしょうだいラクラクコース』『よういドンコース』と銘打った。『もういちど~』は、まだ繰り上がり繰り下がりの手順・計算力が定着していない児童をケアするもので、筆算の横に詳しい解説を付け、その手順に従って計算していけば問題が解けるプリントである。教師は特にこのコースに付いて支援をするようにしたい。『ぶんしょうだい~』は、その名の通り筆算を使って文章問題を解いていくプリントであるが、これは、文章問題が苦手な児童が慣れるために選ぶ場合と、得意な児童がさらに力をつけるために選ぶ場合が考えられる。わかりにくい場合は、設けてあるヒントコーナーを活用させたい。『ようい~』は筆算の計算力が定着してきた児童が、さらに速く正確に解く力をつけていけるように、時間を計り記録していく問題プリントとした。ただし、計算の速さについては人との競争ではなく、あくまでも自分の力に応じた速さを意識づけていきたい。

多様な学習状況に対応するために

選ぶコースが多様であるため、一人の指導者では色々な学習状況に対応しきれない恐れがある。これを避けるために、児童一人一人が自分で学習を進めていけるような工夫として、答え合わせコーナーを設け、自分で答え合わせをして、直したり次に進んだりできるようにする。『ぶんしょうだい~』にはヒントコーナーを設け、わかりにくい場合にはヒントを見に行き解決できるようにする。『ようい~』では、自分でストップウォッチを使い時間を計るようにする。一つのコースが終わったら、次にどうすればよいのかを掲示しておくことによって、次の活動にスムーズに移れるようにする。など、いくつかの工夫を試みたい。もちろん、どの場合にも全く児童に任せるのではなく、状況によって細かく支援していきたい。

6. 指導計画(12時間配当)

第1次	たし算の筆算・コース学習(たし算)・・・・・・・・	5時間
第2次	ひき算の筆算・・・・・・・・	4時間
第3次	どんな計算になるのかな・・・・・・・・	1時間
第4次	コース学習(ひき算)・算数のまど・・・・・・・・	2時間(本時1/2)

7. 本時の目標

自分に合ったコースを選び、ひき算の筆算の力をつけることができる。

8. 準備物

プリント(3コース)・答え合わせプリント・ヒントプリント・ストップウォッチ

9 . 学習過程

学習内容	学習活動	支援（・）と評価（ ）
学習課題の把握	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 自分に合った方法でひき算の筆算の問題を解こう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の筆算の力を伸ばしていこうという意欲を高める雰囲気作りをする。
方法の確認	筆算の練習の方法を知る。 ・自分に合ったコースの選び方 ・答え合わせの約束。 ・ヒントコーナーの使い方。 ・1つのコースが終わったらどうするか。 など	<ul style="list-style-type: none"> ・途中での全体に対する指導が難しいため、丁寧に説明をする。
筆算練習	コース毎にプリントを選び、ひき算の筆算練習をする。 ・『もういちどバッチリコース』（ミスが多いひき算の繰り下がりの部分に説明やヒントを付けたプリント） →分からないところは先生に質問する。終わったら自分で答え合わせをし、違うコースへ進む。 ・『ぶんしょうだいラクラクコース』（ヒントコーナーを別に設けた筆算を使う文章問題のプリント） →分からないところはヒントコーナーで確かめる。終わったら「よういドンコース」へ進む。 ・『よういドンコース』（決まった数の問題を自分で時間を計って速く正確に解けるようにする練習プリント） →ストップウォッチを使って時間を計り、速く正確な計算をする。終わったら「文しょうだいラクラクコース」へ進む。	<ul style="list-style-type: none"> ・コースをどのような視点で選ぶかをしっかり伝え、自分にもっとも適したコースを選択できるように具体例をあげてアドバイスをする。 『もういちど～』 2回繰り下がりがあるひき算の筆算の手順を理解し練習問題を解くことができたか。 『ぶんしょうだい～』 文章問題の大事な部分に着目し筆算を使って問題を解くことができたか。 『ようい～』 自分なりに速く正確にということ意識し、問題を解くことができたか。 ・『もういちど～』を中心に、内容面・方法面の両方を細かく支援していく。
まとめ	授業のふりかえりをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・この時間で自分にはどんな力が着いたかを考えさせたい。

10 . 授業の観点

個に応じた筆算の力をつけるのに、プリントによるコース分けは有効であったか。

11 . ご高評

配置図

